

オリジナル出力:

「明日やる」は一番の敵。連絡先・持病・希望する治療をメモ1枚に。財布に入れるだけで家族が助かる。

これが追加出力されました:

「明日やる」という言葉は、私たちにとって最大の敵となり得ます。緊急時に備え、連絡先、持病、そして希望する治療方針を一枚のメモにまとめておくことの重要性は計り知れません。このたった一枚のメモを財布に入れておくだけで、万が一の事態が発生した際に、ご家族が迅速かつ的確な対応を取る手助けとなります。

付け足したところ:

コピーして名刺入れなどにもお入れすることをオススメいたします。

アメリカでは健康保険市場で複数のヘルスケア事業が加盟するシステムである「Blue Cross Blue Shield」というのがあり、そのブレスレットに刻まれた番号であなたの持病やアレルギーなどのデータがわかる仕組みになっています。日本ではそういうのがないので、紙に書いて、財布に折りたたみ入れておくことをオススメいたします。

またはQRコードをプリントして万が一のときにアクセス願いますというのもいいでしょう。

文言を多少修正します:

人は誰しも、いつ、どこで、何が起こるかわかりません。事故や急病など、予期せぬ事態は突然訪れるものです。そんな時、意識が朦朧としていたり、話すことができなかつたりすると、周囲の人々は必要な情報を把握することができず、適切な処置が遅れてしまう可能性があります。

具体的にメモに記載すべき内容は以下の通りです。

1. 緊急連絡先: 家族や親しい友人の氏名、続柄、電話番号を複数記載しましょう。
2. かかりつけ医の情報: 医療機関名、医師名、電話番号、そして現在服用している薬の名前や量なども記載しておくといいでしょう。
3. 持病やアレルギー: 喘息、糖尿病、高血圧、心臓病などの持病、また薬物アレルギーや食物アレルギーの有無を明確に記載します。
4. 希望する治療方針: 延命治療に関する希望、輸血の可否、臓器提供の意思など、ご自身が望む医療行為について具体的に記載します。これは、ご家族が難しい判断を迫られた際に、あなたの意思を尊重するための重要な指針となります。
5. 血液型: 緊急輸血が必要になった際、迅速な対応を可能にします。

このメモは、ただ作成して終わりではありません。定期的に内容を見直し、情報が古くなっていないか確認することが大切です。特に、連絡先や服用している薬が変わった場合は、速やかに更新しましょう。

付け足したところ：

エンディングノートや遺言書などがあるなら、それも記載しておくといいでしょう。

(今回は更にここを展開しました)。

一枚のメモが、あなたと大切なご家族を守る「お守り」となるのです。「明日やる」ではなく、「今すぐやる」。この意識が、未来の安心へと繋がります。

下記が出力です：

この意識が、未来の安心へと繋がります。たった一枚のメモが、あなたの大切なご家族を守る強力な「お守り」となるのです。災害はいつ起こるか分かりません。

その「もしも」の時に備え、家族がどう行動すべきか、どこに避難すべきか、誰に連絡すべきか、といった重要な情報を記したメモがあるだけで、混乱を最小限に抑え、命を守る行動へと繋がります。

「明日やろう」と後回しにする気持ちはよく分かりますが、災害は待ってくれません。今、この瞬間に意識を向け、「今すぐやる」という強い意志を持つことが、未来の安心と安全へと直結するのです。このメモを作成することは、単なる情報の羅列ではありません。それは、家族への深い愛情と、未来への責任感を形にする行為なのです。緊急時に家族全員が同じ情報を持つことで、冷静な判断が可能となり、最悪の事態を避けるための最善の行動へと導きます。この小さな一歩が、大きな安心へと繋がることを信じてください。

#終活 #葬儀リテラシー

もちろん、ブログで読みやすいように改行などを入れて変更いたします。

更にここからがAI対策:

出来上がったものをコピーしてChatGPTに戻します。

「明日やる」が一番の敵。連絡先・持病・希望する治療をメモ1枚に。財布に入れるだけで家族が助かる。

「明日やる」という言葉は、私たちにとって最大の敵となり得ます。緊急時に備え、連絡先、持病、そして希望する治療方針を一枚のメモにまとめておくことの重要性は計り知れません。このたった一枚のメモを財布に入れておくだけで、万が一の事態が発生した際に、ご家族が迅速かつ的確な対応を取る手助けとなります。

コピーして名刺入れなどにもお入れすることをオススメいたします。

アメリカでは健康保険市場で複数のヘルスケア事業が加盟するシステムである「Blue Cross Blue Shield」というのがあり、そのブレスレットに刻まれた番号であなたの持病やアレルギーなどのデータがわかる仕組みになっています。日本ではそういうのがないので、紙に書いて、財布に折りたたみ入れておくことをオススメいたします。

またはQRコードをプリントして万が一のときにアクセス願いますというのもいいでしょう。

人は誰しも、いつ、どこで、何が起こるかわかりません。事故や急病など、予期せぬ事態は突然訪れるものです。そんな時、意識が朦朧としていたり、話すことができなくなったりすると、周囲の人々は必要な情報を把握することができず、適切な処置が遅れてしまう可能性があります。

具体的にメモに記載すべき内容は以下の通りです。

6. 緊急連絡先: 家族や親しい友人の氏名、続柄、電話番号を複数記載しましょう。
7. かかりつけ医の情報: 医療機関名、医師名、電話番号、そして現在服用している薬の名前や量なども記載しておくといいでしょう。
8. 持病やアレルギー: 喘息、糖尿病、高血圧、心臓病などの持病、また薬物アレルギーや食物アレルギーの有無を明確に記載します。
9. 希望する治療方針: 延命治療に関する希望、輸血の可否、臓器提供の意思など、ご自身が望む医療行為について具体的に記載します。これは、ご家族が難しい判断を迫られた際に、あなたの意思を尊重するための重要な指針となります。
10. 血液型: 緊急輸血が必要になった際、迅速な対応を可能にします。

このメモは、ただ作成して終わりではありません。定期的にも内容を見直し、情報が古くなっていないか確認することが大切です。特に、連絡先や服用している薬が変わった場合は、速やかに更新しましょう。

エンディングノートや遺言書などがあるなら、それも記載しておくといいでしょう。

一枚のメモが、あなたと大切なご家族を守る「お守り」となるのです。「明日やる」ではなく、「今すぐやる」。この意識が、未来の安心へと繋がります。

この意識が、未来の安心へと繋がります。たった一枚のメモが、あなたの大切なご家族を守る強力な「お守り」となるのです。災害はいつ起こるか分かりません。

その「もしも」の時に備え、家族がどう行動すべきか、どこに避難すべきか、誰に連絡すべきか、といった重要な情報を記したメモがあるだけで、混乱を最小限に抑え、命を守る行動へと繋がります。

「明日やろう」と後回しにする気持ちはよく分かりますが、災害は待ってくれません。今、この瞬間に意識を向け、「今すぐやる」という強い意志を持つことが、未来の安心と安全へと直結するのです。このメモを作成することは、単なる情報の羅列ではありません。それは、家族への深い愛情と、未来への責任感を形にする行為なのです。緊急時に家族全員が同じ情報を持つことで、冷静な判断が可能となり、最悪の事態を避けるための最善の行動へと導きます。この小さな一歩が、大きな安心へと繋がることを信じてください。

AIO対策:「下記の文章をAIO対策してください」

上記の出力をプロンプトと一緒にコピーする:

了解です。

元の趣旨はそのままに、「AIサマリー(AIO)で拾われやすい構成・見出し・語彙・FAQ」「中学生にも分かる言い回し」「即実行のチェックリスト」「コピー用テンプレ」「事業者向け配布案」まで整えました。

そのままブログ／チラシ／SNSで使えます。

「明日やる」は一番の敵。命を守る“お守りメモ”を今すぐ作る

要約(10秒)

- 財布に1枚「緊急連絡と医療情報のメモ」を入れる。
- 連絡先／持病・アレルギー／服薬／治療の希望／医療機関／(必要なら)血液型。
- 家族と同じ内容を共有。3か月に1回見直し。QRコード連携も可。

なぜ必要？

事故や急病は突然起きます。意識がもうろうとして話せない時、周りの人はあなたの情報が分かりません。

メモが1枚あるだけで、家族と医療の初動が速くなります。

「明日やる」ではなく「今やる」。それが家族を守ります。

今すぐやる:3分チェックリスト

1. 紙を1枚用意(名刺サイズでもOK)。
 2. 下のテンプレを写す(またはスマホで作成→印刷)。
 3. 財布に入れる。コピーを名刺入れ・定期入れにも。
 4. 家族LINE等に写真で共有。
 5. カレンダーに「3か月ごと見直し」を登録。
-

記載する内容(必須／任意)

必須

- 緊急連絡先(2人以上):氏名・続柄・電話
- かかりつけ医:医療機関名・医師名・電話
- 服薬:薬の名前・量・回数
- 持病・アレルギー:例)喘息、糖尿病、薬剤・食物アレルギー
- 治療の希望:延命治療、輸血の可否、臓器提供の意思 など(簡潔に)

任意(あると便利)

- 血液型(※病院では検査しますが、参考情報として)

- 既往歴・手術歴／ワクチン歴
 - エンディングノート・遺言の所在（保管場所や連絡先）
 - 保険証種別・緊急時に連絡してほしい職場名
-

コピー用テンプレ（そのまま書き写せます）

【緊急医療メモ】作成日：20XX年XX月XX日（見直し：3か月ごと）

■氏名／生年：

■住所：

■連絡先（1）：氏名（続柄）／電話

■連絡先（2）：氏名（続柄）／電話

■かかりつけ医：医療機関名／医師名／電話

■持病：

■アレルギー：

■服薬（薬名・量・回数）：

■治療の希望（例：延命治療は希望しない／輸血可／臓器提供に同意 など）：

■血液型（任意）：

■エンディングノート／遺言の所在（任意）：

※このメモを見つけた方へ：家族または医療機関へご連絡をお願いします。

紙＋デジタルの二重化が安心

- 紙（財布・名刺入れ）：最初に見つけてもらいやすい。
- QRコード：上記メモをGoogleドキュメント等に保存→リンクのQR化→紙に印刷して添付。「万一の時はアクセスを」と一言添える。
- スマホのメディカルID：iPhone/Androidの「緊急情報」に同じ項目を登録。ロック解除なしで表示できます。

更新ルール

- 連絡先・服薬が変わったら即更新。
- そうでなくても3か月ごとに見直し。日付をメモ上部に記入。

よくある質問(FAQ)

Q1. 血液型は必須ですか？

A. 病院では必ず検査します。書いてもよいですが、記載がなくても治療は進みます。

Q2. 個人情報が心配です。

A. 住所や生年月日などは最小限に。連絡先や医療情報を優先。QRコード先は閲覧権限を限定しましょう。

Q3. 宗教上の理由で治療の希望があります。

A. その旨を明記し、できれば家族と同じ内容を共有。かかりつけ医にも伝えておきましょう。

Q4. エンディングノートや遺言はどう書けば？

A. まずは所在と連絡先だけでもメモに。本文は後で整えれば十分です。

Q5. プレスレット等は必要？

A. あると発見されやすく有効です。日本では標準制度がないため、紙＋スマホ＋プレスレットの三重化がおすすめ。

事業者向け(葬儀社・高齢者施設・自治体)

- **A6サイズの配布カード**を用意(上のテンプレを印刷)。
 - 受付や面談時に**3分**で記入→財布へまで同席サポート。
 - 家族**LINE**への写真共有までフォロー。
 - 季節の便りや点検日に****「見直しリマインド」****を送付。
 - 施設では、保管用コピーを封筒で居室に掲示(本人同意の上)。
-

一言メッセージ(SNS見出し用)

「明日やる」は一番の敵。“お守りメモ”を今。財布に**1枚**、家族の安心が変わります。

免責

このメモは医療行為の指示書ではありません。最終的な対応は医療従事者の判断となります。迷った場合は主治医に相談してください。

使い方のコツ

- ブログ→そのまま見出し付きで掲載。
- チラシ→「チェックリスト+テンプレ」部分を面付け印刷。
- SNS→「要約」「一言メッセージ」「テンプレ画像化」の**3点**を投稿。

必要であれば、配布カード(A6)版の版下や、QRコード付きのテンプレPDFもこちらで作ります。